

じゃんけんしよう

今日、ぼくは、家^かで、ゆう^{えん}園^ち地^きに 来^きて いる。
インドネシアから 一年^{いちねん}ぶりに 帰^{かえ}っ て き た おじさ
んも いっしょだ。

みんなで、大人^{だいじん}気^きの ジェットコースターの れつに
ならんだ。

「ロック（岩^{いわ}）、ペーパー（紙^{かみ}）、シザーズ（はさみ）、
ワン、ツー、スリー！」

ならんで いる ぼくの 後^{うし}ろで、外国^{がいこく}人^{じん}の 子^こども
の 声^{こえ}が した。

二人^{ふたり}の 男^{おとこ}の子^こが、じゃんけんを して いた。



じゃんけんしょう

「えっ、日本にっぽんの じゃんけんと いっしょ？」

すると、お姉ちゃんねえが、

「学校がっこうで ならったよ。やって みようか。」

と 言い出した。

声こゑを 小さくして やって みた。

「ロック、ペーパー、シザーズ、ワン、ツー、スリー！」

だんだん 楽しくたのな くなって きた。

「インドネシアには、こんな じゃんけんが あるよ。」

おじさんが、え顔がへで ゆびを うごかした。

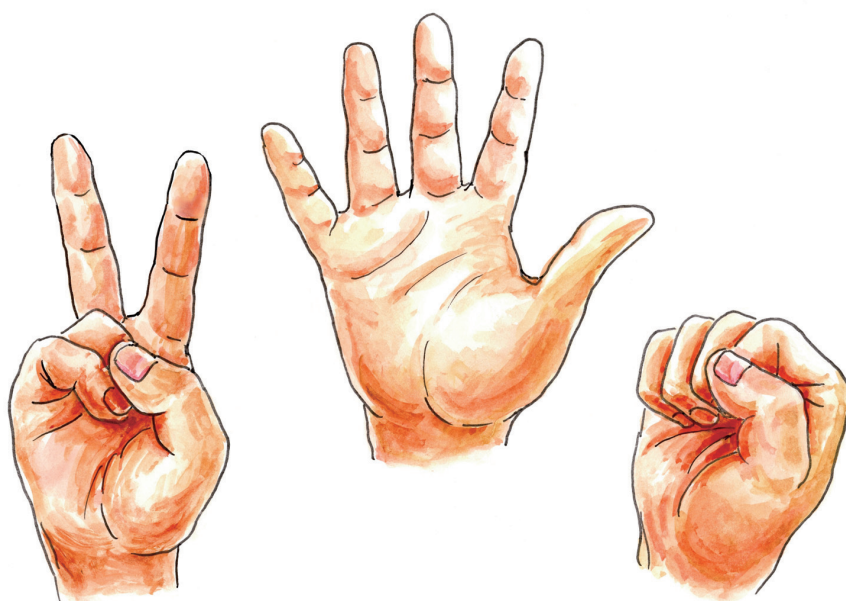
「えっ。インドネシアにも じゃんけんが あるの？」

「スー ウィット！」

かけ声かゑを かけて、おじさんは こぶしを にぎり 親ゆびおやを 一本出いっぽんした。

「これは、『ガシャ』。これは、ぞうを あらわすんだよ。」

「えっ。ぞうなの？」



おじさんは、さらに つづけて 教えて くれた。

「人さしゆびを 出すと 『オラン』。これは、人を
あらわす。そして、小ゆびを 出すと 『スムット』。
ありを あらわすんだ。」

ぼくは、くりかえし 教えて くれる おじさんの
ゆびを ずっと 見つづけた。

「えっ。ありが、ぞうに かつの？」

ぼくは、おじさんに たずねた。

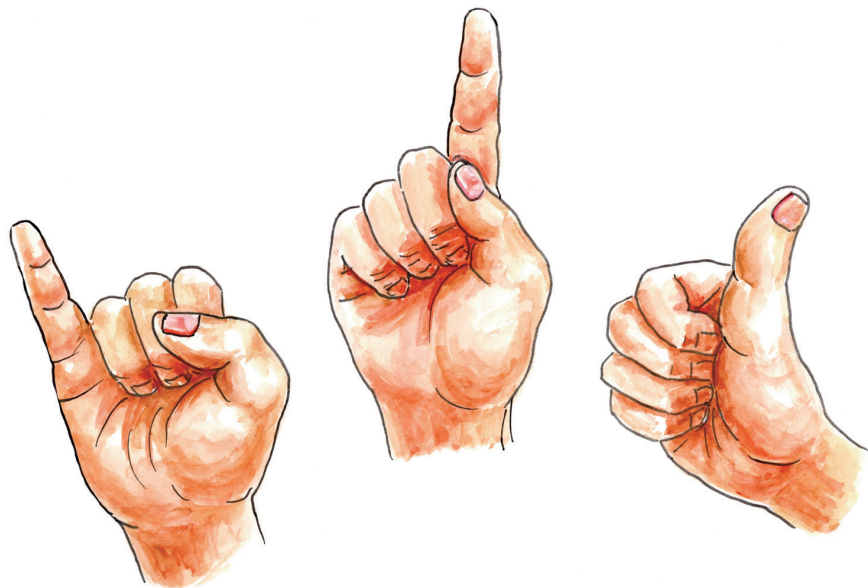
「そうだよ。ありは、ぞうに かつ。ぞうは、人に かつ。

人は、ありに かつ、という ルールなんだ。」

「なんだか 楽しそう。やって みよう。」

お姉ちゃんと おじさんと いっしょに じゃんけんを
した。

「スー ウィット！」



おじさんは、親^{おや}ゆびの「ぞう」を出^だした。ぼくとお姉^{ねえ}ちゃんは小^こゆびの「あり」を出^だした。

「かった。ありが ぞうに かった。」

ぼくとお姉^{ねえ}ちゃんはわらいながら、何^{なん}どもやってみた。

後ろ^{うし}の外国^{がいこくじん}人の男^{おとこ}の子^こがこちらを見^みて、にこっとわらいかけてきた。

ぼくもつられてにこっとした。少し話^{はな}しかけてみようかな。

「ねえ、じゃんけんしょう。」

(古賀 正孝 作)